

ドイツの言語と文化 第13回 文化パート8：学生発表第3回

範囲：教科書第十一章 (S. 157 - 181)

第11回から引き続き学生発表の回であり、事前に決めた分担の通り、教科書の内容説明は受講者にやってもらう。やはり、一部の事項に関してのみ、講師から補足しておく。

第十一章 大統領内閣 (S. 157 - 181)

ブリュニングの誤算 (S. 158)

S. 159

・「一九二七年の彼の誕生日の記念に東プロイセンのノイデックの領地が彼に贈られた」
…ここで言う「領地」とは農場のこと。**ユンカー**は**地主貴族**であり、実際に大地主として土地を所有していた。

* 日本の武士の「領地」とは、彼らが行政権や徴税権を持っている地域のことであり、地主として土地を所有していたのは農民であった。ユンカーの「領地」とは異なる。

ナチスの躍進 (S. 160)

S. 161

・「社会主義的綱領を押し進めて反資本主義闘争を展開すべきだと信じている人々があり、グレゴール・シュトラッサーはその派の頭目であった」

…**グレゴール・シュトラッサー** (Gregor Strasser) は、弟の**オットー・シュトラッサー** (Otto Strasser) とともに「**ナチス左派**」の代表とされる。ナチスの政権獲得後、1934年に後述のレームとともに粛清される（長いナイフの夜）

・「突撃隊 (S・A)」「軍人出身のレームがその指揮者となってそれを一個の軍隊組織につくり上げ、やがて政権獲得ののちには正規軍の地位を獲得することを夢みていた」

…**エルンスト・レーム** (Ernst Röhm) は**突撃隊**幕僚長。政権獲得後、「第二革命」や突撃隊の正規軍化を唱え、やはり1934年の長いナイフの夜で粛清される。

* 長いナイフの夜の直前、シュトラッサーがレームに反ヒトラーの共闘を持ちかける設定の戯曲が三島由紀夫「わが友ヒトラー」(『サド侯爵夫人・わが友ヒトラー』新潮文庫、1968年)。

ナチスと共産党 (S. 168)

S. 169

・「テールマンがその党首となった」

…**エルンスト・テールマン**（Ernst Thälmann）はヴァイマル時代末期のドイツ共産党党首。1925年と1932年の大統領選挙に立候補した。

S. 169 - 170

・『統一戦線』の戦術が [...] 失敗」「社会民主主義はファシズムと異ならぬという意味で『社会ファシズム』と名付けられた」

…**統一戦線と社会ファシズム論**は、それぞれソ連共産党やその指導下のコミンテルンが各国の共産党に指示した戦術。統一戦線＝社会民主党と手を組んで資本主義やファシズムと闘うこと、社会ファシズム論（社会民主主義主要打撃論）＝社会民主党をファシズムと変わらないと考える優先的に倒すこと。

シュライヒャーとナチス (S. 173)

S. 174

・「ナチスの突撃隊や親衛隊と同様に他の政党の団体、特に『国旗団』が禁止されるべきであると述べられていた」

…ヴァイマル時代の国旗団（Reichsbanner Schwarz-Rot-Gold）は、**準軍事組織**とされる場合もある。ほか、ナチス党の突撃隊や親衛隊、国家人民党と近い鉄兜団、共産党の赤色戦線戦士同盟などがあった。

ブリューニングと経済恐慌 (S. 180)

S. 181

・「このころ、ケインズの主著はまだ出ていなかったが、その先駆をなす彼の思想はすでに世に現れていた」

…**ジョン・メイナード・ケインズ**（John Maynard Keynes）の主著とは、1936年の『**雇用、利子および貨幣の一般理論**』のこと。恐慌や失業の対策として、政府による積極的な財政政策（公共事業など）や金融政策（金融緩和／引き締めなど）を説いた（それまでの古典派経済学では市場に自律的な調整機能があると見なされていた）。

* ジョン・メイナード・ケインズ『雇用、利子および貨幣の一般理論 上・下』間宮陽介訳、岩波文庫、2008年。

連絡先など

講師のメールアドレス：tokan@nifty.com 講師のウェブサイト：http://hasegawa.la.coocan.jp/

授業のサイト（配付資料あり）：http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2018/2018sitDeutscheSpracheundKultur.html